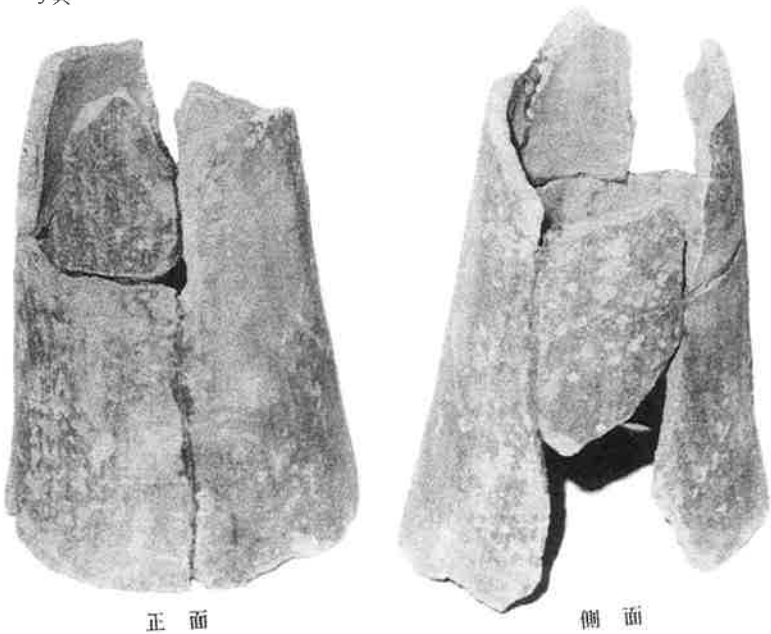
別府市末行遺蹟の銅鐸型土製品

佐藤　曉

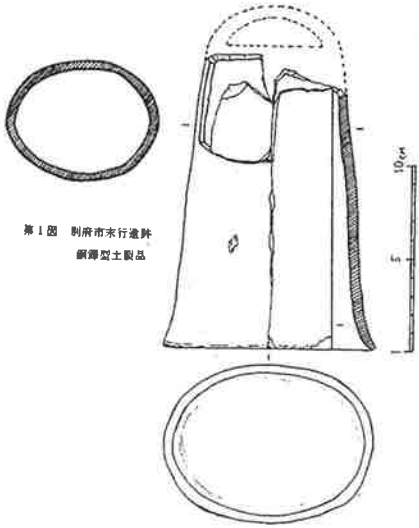
第I図で示したのは、別府市の末行遺蹟から発見された銅鐸型土製品である。大きさは、縦一五・七センチ。銅の断面は楕円形をしていて、上部の長径八センチ・短径六・五センチ程、下部の長径十一センチ・短経八・五センチ程の素焼きの土器である。表面は研磨されていて丹によって赤く彩色されている。また内面の下部にも一・四センチほどの丹彩がある。頭部は残念なことに破損していて欠損してない。その為、銅鐸型土製品であることが明確でないが銅の断面が楕円形をしていることから、銅鐸型土製品としか考えられない。（写真参照）

銅鐸とは、弥生時代の祭祀の道具で、近畿・中国・東海・関東地方などに分布して発見される、国産の鰭のついた縦二十センチ以上の銅鐸と、九州地方を中心とし朝鮮半島にまで分布する鰭のない小銅鐸がある。この小銅鐸は「朝鮮式銅鐸」とも呼ばれている。大分県では宇佐

写真



正面　　側面



第Ⅰ図　別府市末行遺跡
銅鐸型土製品

市別府遺蹟・大分市多武尾遺蹟から小銅鐸が、それぞれ一個づつ発見されている。その内宇佐別府遺蹟の小銅鐸は、発見当時、平たく潰されて破棄された様子で発掘された。しかし完全で欠ける処がないので、復元が可能である。この復元したのが第Ⅱ図である。

銅鐸型土製品は、土によって銅鐸を写したミニチュアと考えられるから、その形を考察するには銅鐸と比較するのが一番よい。そこで宇佐別府遺蹟の銅鐸と、末行遺蹟の銅鐸型土製品と比較すれば、そっくりだといえよう。このことから別府市末行遺蹟は、弥生時代の重要な祭祀遺蹟と考えられよう。

銅鐸型土製品は、現在までに四二個が三六ケ箇所の遺蹟から発見発掘されている。（表参照）

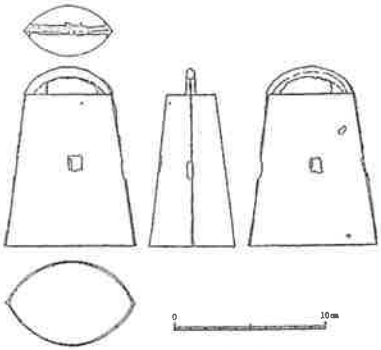
残念なことに、末行遺蹟は、昭和二十八年に発見されて、完全な調査なしに破壊されてしまっている。これが完璧な調査発掘を実施していたならと、惜しまれてならないのである。

銅鐸型土製品の実物は、六勝園の別府市立美術館に保存されている。

〔編者註〕

別府市末行遺蹟は、実相寺山の東麓の低い台地にある住居趾で、石垣地区区画整理事業の際に、表面採の土器片によって確認された遺蹟である。

位置は、別府市吉弘



第Ⅱ図　宇佐市別府発見銅鐸型小銅鐸復原図

町末行で、現在の別府吉弘郵便局付近である。

時代は、採集した土器片から、弥生時代後期から古墳時代にかけてのものである。

特に、この遺蹟は、扇状地のヘリで東側の日豊本線と西側の旧国道の中間にあり、ちょうど湧水線上に位置している。採集当時もまだ盛んに湧水があった。採集した土器の中には、湧水地（泉）の水神の祭祀に使用された高坏などのミニチュアの土器（祭祀土器）が数個出土した。

末行遺蹟は、稲作の生命である水に対する深い信仰があったことがよく分かる祭祀遺蹟で、この湧水は灌漑用水として北石垣の水田を潤し、この水の恩恵を受ける住民がお祭をしていたものと思われる。

採集した土器類は、別府市美術館に展示している。

表　縄文型土製品出土地名表

番号	出土地名	形状・容量等
1	福岡県朝倉郡夜須町三並・琴の宮	高さ4．8　巾3．3　厚さ2．5 somaあり。弥生後期方形竪穴住居
2	同　上　遺跡	高さ3．7　丹彩＝土製香
3	福岡県春日市原三丁目九大構内	高さ10　丹彩
4	北九州市南区北九州大構内・北方	高さ8．2　巾4．5　厚さ7．7 舞巾3．8　竪穴住居址
5	佐賀県神埼郡千代田町姉田西分	
6	佐賀県神埼郡神埼町川寄吉原	上半部のみ現存。底あり、縁なし、舞に2孔あり、現高3．6
7	同　上	完存。底なし、舞に4孔。胴部断面はほぼ正円。高5．7　最径6．0
8	佐賀県神埼郡神埼町川寄吉原	下部欠、底なし、舞2孔、片面大く片面平らな半円筒状、片面に隆刻人物像あり。現高7．2
9	佐賀県神埼郡神埼町利田南	底片、現高8．0。舞孔あり、底なし？
10	佐賀県神埼郡神埼町的五木黒木	高6．0。五角形の孔2孔。層符
11	同　上	下部欠損。高4．0。孔1
12	佐賀県神埼郡神埼町吉野ケ里	高7．0。孔2。
13	佐賀県三養基郡三根町本分	下部欠損。高4．0
14	同　上　遺跡	
15	佐賀県佐賀郡大和町尼寺佐賀	底と身の部分
16	大分県別府市春木＊末行	上部欠損。現高15．6
17	岡山県岡山市上伊福	底片、縁あり。縄帯文か隆線縄文？。胴部断面円に近し。現高6．4
18	岡山県赤磐郡山陽町17 門前池西側第1地点	現高4．7
19	岡山県阿哲郡哲西町滝水谷	現高6．6
20	島根県松江市竹矢町祇田	高9．8．巾8．1
21	徳島県名西郡石井町高川原	完形、底、縁、身下部型押孔を表現。隆線縄文を施す、高7．0
22	大阪府茨木市東奈良	

注。『縄文の美』付表2（九州歴史資料館刊）と『月刊文化財発掘出土情報』創刊号－1990年5月号より抜粋作成。

23	大阪府東大阪市若江町西新町2 瓜生堂遺跡	完形、両面に文様刻線あり。底、縁、身を表現。黒褐色を呈した可能性あり。胴部横断面古仁形、高5．5
24	大阪府八尾市亀井町	底片
25	同　上	底片
26	奈良県桜井市大福	底と下部部を欠く。舞に2孔。隆線縄文帯を表現。時期は縄期、縁あり・現高5．5
27	奈良県桜井市芝	糸状文帯を携す、高7．5、巾6．0。弥生中期、方形周溝墓の溝中出土
28	奈良県橿原市四分町四分	完形、無文、赤色顔料による着色痕あり、底が全高の1/4を占める、胴部横断面古仁形。高6．9
29	同　上	底片、縁あり、隆線縄文を表現。胴部横断面古仁形、現高4．3
30	奈良県橿原市常盤町坪井遺跡	脚の上部、鉢の一部。弥生中期、高13？
31	奈良県天理市加之内町山口神留	高10、古墳時代初？
32	奈良県磯城郡田原本町唐古鍵遺跡	下半部欠損、縁あり。無文、断面紡錘形。現高6．6
33	京都府与謝郡加悦町奥鍋遺跡	
34	三重県鈴鹿市上箕田町字祇園田21	底の一部欠、隆線縄文を表現、低い縁あり現高8．4、弥生後期前半？
35	愛知県名古屋市南区見晴台50番地 但池	底と脚の一部。底なし、無文。
36	愛知県名古屋市西区貝田町 西志賀貝塚付近	底欠失。舞に2孔。縄状縄文を表現。
37	愛知県西尾市岡島町荒茶	下部欠失、底なし、縁なし、隆線縄文
38	愛知県西尾市住崎町堀中	底欠失、縁あり、無文、現高4．3
39	愛知県西春井郡清洲町朝日遺跡	
40	神奈川県横浜市港北区樽町	現高4．7
41	東京都町田市能ケ谷	
42	千葉県船山市沼	現高9．0